

2017年3月期決算 補足説明資料

2017年 5月15日

株式会社キョウデン

(証券コード：6881)

KYODEN
GROUP



2017年3月期 連結業績概要

	2016年3月期	2017年3月期	増減額	(単位：百万円) 増減率
売上高	51,144	53,862	+2,717	+5.3%
営業利益	1,797	2,065	+267	+14.9%
EBITDA (償却前営業損益)	3,485	3,846	+361	+10.3%
経常利益	1,332	1,896	+563	+42.3%
親会社株主に 帰属する当期純利益	259	1,467	+1,207	+465.6%
ROE	2.4%	12.4%		
年間配当金(円/株)	1	5 (普通3+特別2)		

TOPICS :

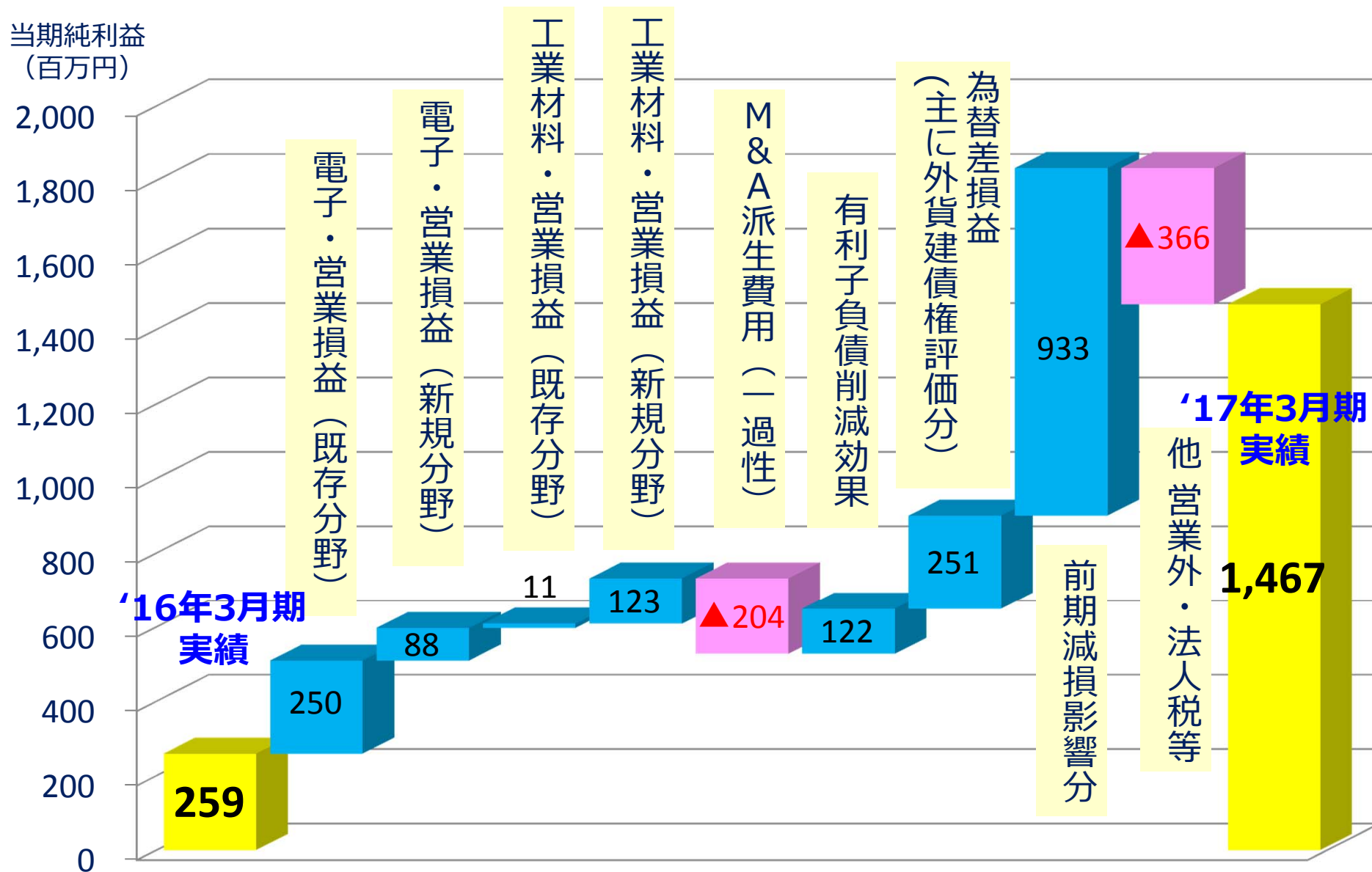
- 売上高は 電子事業全般の好調及び前期中に子会社化した3社分が加算となり増加
一方 為替変動により 外貨建売上分では 前期比換算差額(▲505百万円)が発生
- 利益面では 前期M & A実施関連の一過性費用(約204百万円)の計上を含む
海外電子事業(キョウデンタイランド)の業績改善が大きく寄与(後頁参照)

■業績好調につき

9年ぶりの1株5円(普通3円+特別2円) 配当実施を決定!!

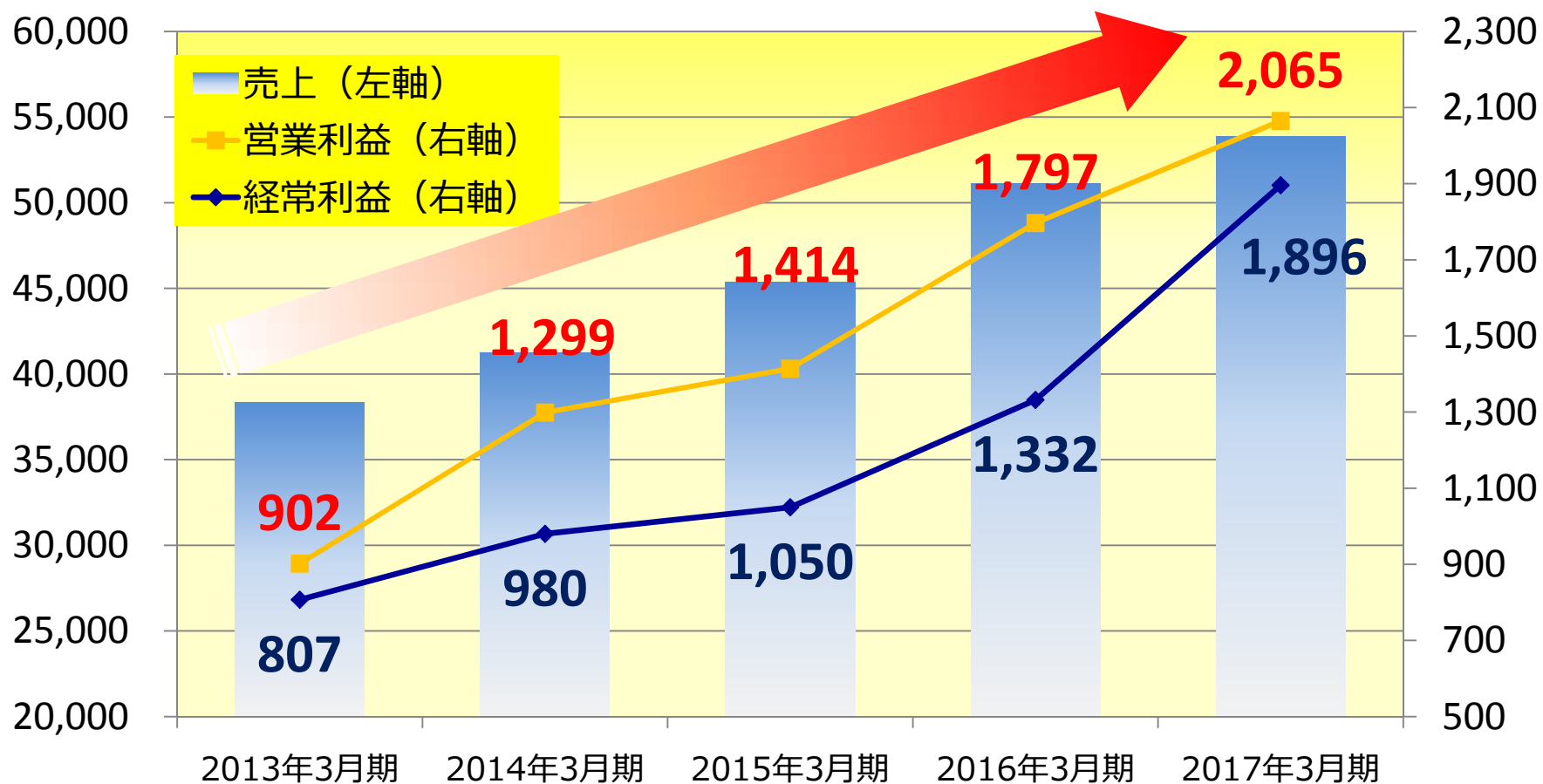


連結当期利益 前期比増減要因



連結業績推移

【単位：百万円】



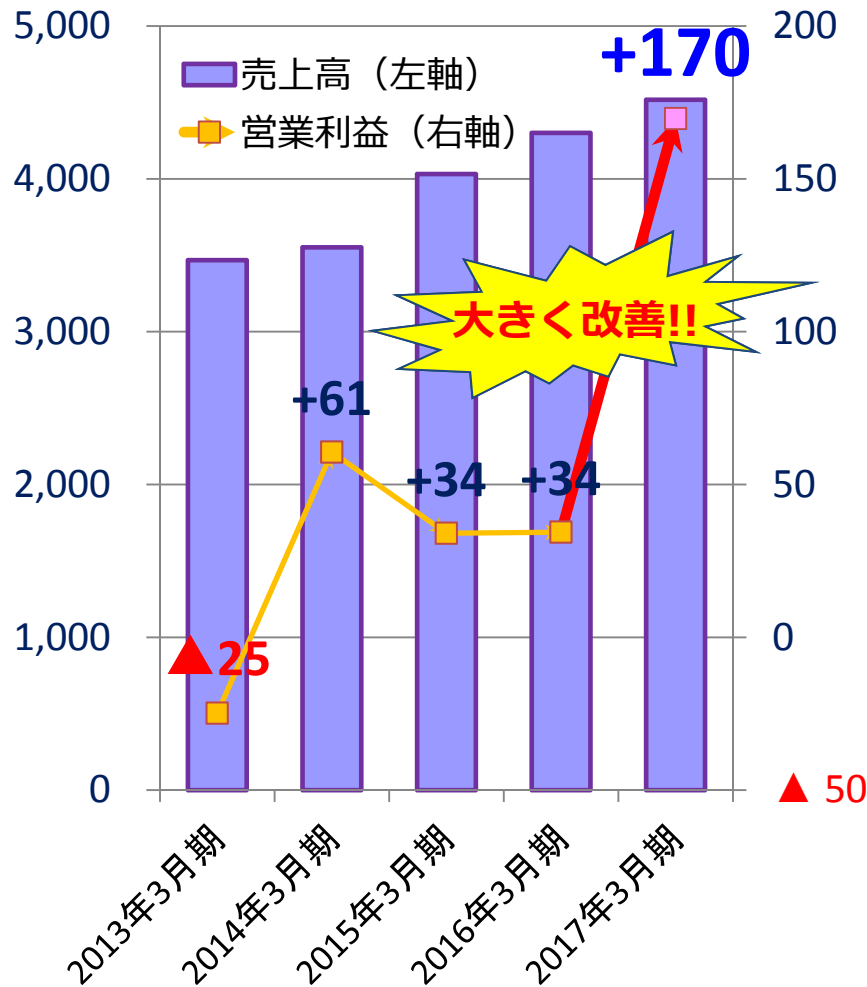
**売上高・営業利益・経常利益は
2013年3月期から4期連続で着実に伸長!!**

【 2017年3月期 業績ピックアップ① 】

～電子事業・タイ工場の業績改善～

◆ KYODEN (THAILAND) 実績推移

(現地通貨：百万タイバーツ単位)



◇従来より **車載関連**の旺盛な受注環境と設備投資による拡大によって 売上は順調に伸長していたが

- ・定常的なコストダウン対応
- ・現地人件費水準の継続的な上昇
- ・原材料・副資材及び水光熱コストの高騰

などから 利益は長期にわたり低迷
⇒ **グループ財務体質改善の足かせに。。。**

◇**グループ総力を挙げて**
品質及び生産性の改善に 短期集中で取り組み

◇**歩留率が日本国内生産の水準まで改善**

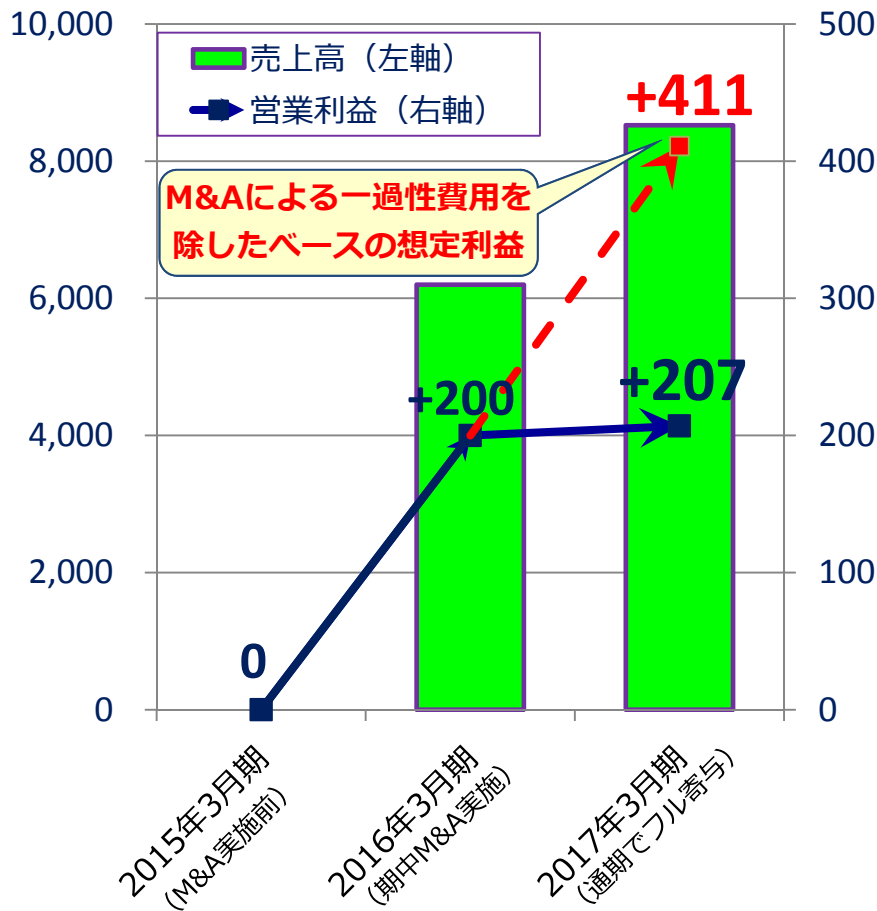
- ・余剰投入分の低下
- ・納期対応力（生産効率）アップ
- ・エア等通常外輸送費の低減

など **業績良化の好循環にシフト**
⇒ **財務体質の大幅改善**

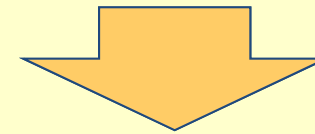
【 2017年3月期 業績ピックアップ② 】

～M&A実施及びPMI(実施後の効果追求プロセス)成果～

- ◆ 2016年3月期に子会社した3社の業績貢献
 –キョウデンプレジジョン、ジャンテック、
 ツルガスパンクリート業績推移(3社合算) –
 (単位：百万円)



- ◇ 電子事業・工業材料事業ともに 中長期の視点において 既存ビジネスの幅を広げるべく M&A実施



＜電子事業＞

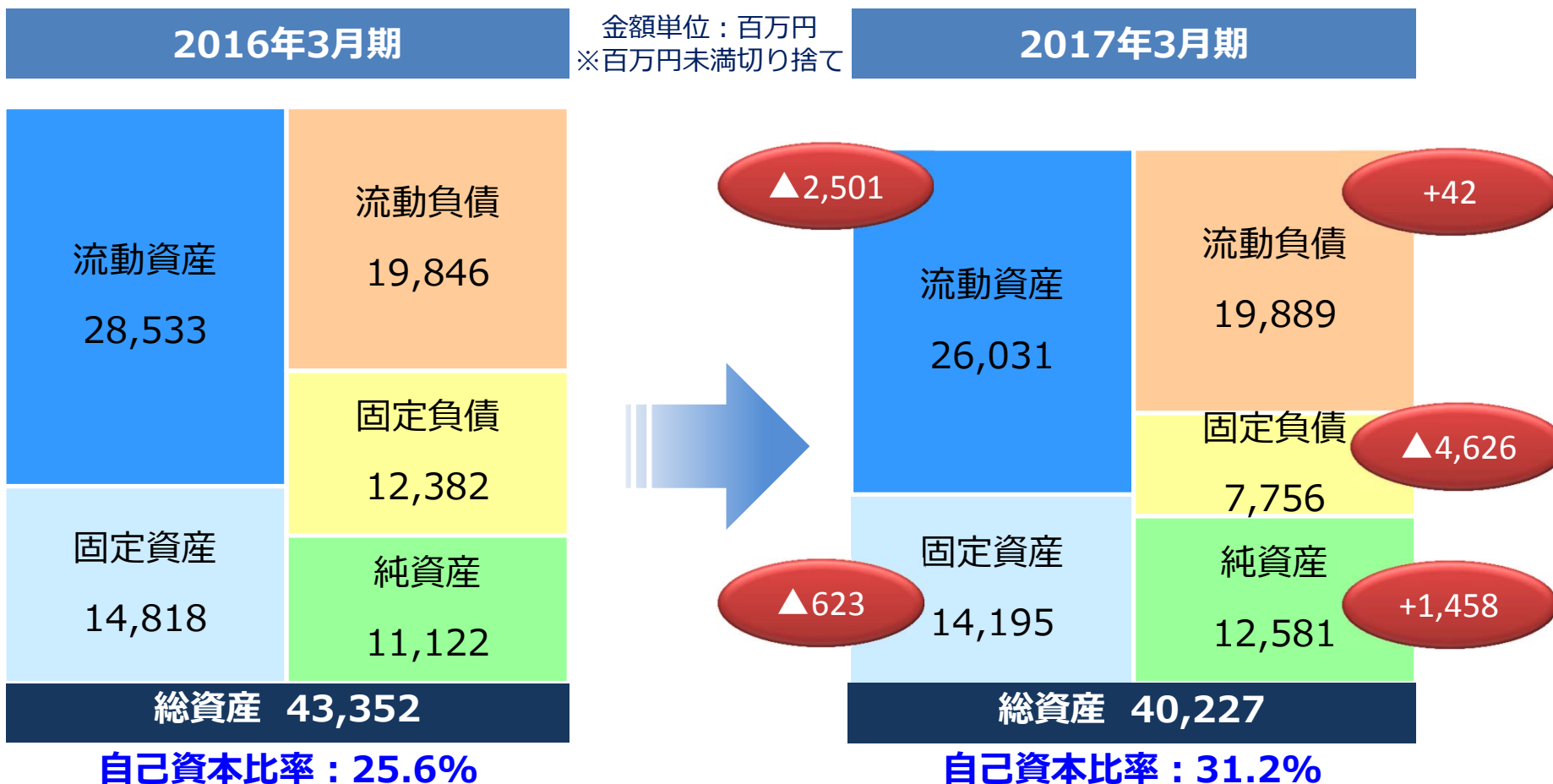
- ◇ 従来のプリント基板プロセスの川下である製品組立を手掛けるキョウデンプレジジョンを子会社化
 ⇒キョウデンのブランド製品開発や 新技術を用いた市場の開拓に向けて投資支出を先行させながらも 初年度から黒字運営を維持

＜工業材料事業＞

- ◇ 将来的な原料・資材需要の高まりを想定し 金属原料を扱うジャンテックと 耐久性に優れた建築資材を扱うツルガスパンクリートを子会社化
 ⇒従来事業とのシナジーを高め 初年度から黒字運営を維持

⇒M&A実施で派生した一過性要因により
2017年3月期は約204百万円の費用計上

連結貸借対照表



- 当期利益による純資産の積み増しに加え
グループ内の資金効率を高めることに注力した結果
2018年度を目標としていた自己資本比率30%超過を2年前倒しで実現！！

連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (実績)	増減額
営業C F	1,844	4,139	+2,294
投資C F	▲1,169	▲902	+266
財務C F	▲1,800	▲6,197	▲4,396
現金及び 現金同等物の残高	8,126	5,165	▲2,961

設備投資・減価償却費・研究開発費

(単位：百万円)

	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (実績)	2018年3月期 (予想)
設備投資	2,184	1,636	2,200
減価償却費	1,687	1,781	2,000
研究開発費	308	216	500

2018年3月期連結業績予想

(単位：百万円)

	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	対前年比 増減額
【売上高】	53,862	55,000	+1,138
電子事業	43,155	43,400	+245
工業材料事業	10,706	11,600	+894
【営業利益】	2,065	2,300	+235
電子事業	1,172	1,400	+228
工業材料事業	892	900	+8
【EBITDA (償却前損益)】	3,846	4,300	+454
【経常利益】	1,896	2,100	+204
【親会社株主に帰属 する当期純利益】	1,467	1,500	+33
【ROE】	12.4%	10.8%	
【年間配当金(円/株)】	5 (普通3+特別2)	3~5	

【 2018年3月期取り組みトピック① 】

～新規事業への参入～ 事業構造の変革に向け「新規事業本部」及び「三島開発センター」を創設！キョウデンブランド製品の上市実現に向け加速！！

自社ブランド事業



照明

- 高機能の導光板印刷技術を活用し照度と省エネ性能に優れたLED照明機器への参入

バイオ

- 水素水を用いた農作物栽培の実証実験（産学連携）
- 遊休資産を活用した全く新しい分野への展開

IoT

- 位置情報の特定や計測データの送信などに適した省電力・長距離通信を得意とするSigfoxネットワークのインテグレート
- 農水路管理へのIT機器活用

EMS事業

DMM.make AKIBA

スタートアップ支援

- DMM.Makeとの提携からアイデア製品の発掘

EMS

- 既存ビジネスの有する多種リソースを活用した受託生産

【 2018年3月期取り組みトピック② 】

～TOSEI社への資本参加～

- ・2017年5月15日 業務用ランドリー機器等を製造・販売する株式会社TOSEIへの資本参加（持分法適用関連会社化）を実施！！

－TOSEI社概要－ (<http://www.tosei-corporation.co.jp/>)

○会社の特徴

- －業界で最初に洗濯乾燥機タイプをリリース
- －10kg以上のコインランドリー機器において
トップクラスの業界シェア（約3割・同社試算）を持つ
- －ランドリー機器の他に真空包装機器（布団、食品保存他）なども手掛ける

○近年の業界動向（業務用洗濯機器関連）

- －布団・靴など衣類以外も洗える機器が続々登場
- －利用者層が拡大し 雰囲気の良いコインランドリーなども登場し活況に
⇒業界全体のコイン機の販売台数は2015年から2016年で約1.5倍に増加

○今後の取り組み

- －集中精算機によるキャッシュレス化（電子マネー、クレジット決済等）
- －カフェや託児所等を併設したコンセプト店舗構想
- －洗浄性の向上による洗剤の使用量削減 他

TOSEI ～取扱製品～

ランドリー機器



真空包装機器



その他
工業用部品
洗浄機器 等



将来的には TOSEIビジネスのノウハウから

当社の電子事業が目指す完成品メーカーへの発展に必要な機能の充足を企図！

■本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比で異なる可能性があることにご留意ください。

■ご利用に関しては、ご自身の判断にてお願い致します。

本資料に基づいて被ったいかなる損害についても、
当社は一切責任を負いませんので、ご承知おきください。



本資料に関するご照会先

株式会社 キョウデン 経営企画部

TEL : 045-929-0501